



洞爺湖有珠山ジオパーク 世界認定再審査
現地調査対応報告書

平成25年7月24日（水）～27日（土）

伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

世界ジオパークネットワーク（GGN）は認定地域に4年に1度の再認定審査を求めており、洞爺湖有珠山ジオパーク（H21.8.22 認定）の再審査（現地審査）が、平成25年7月24日（水）から27日（土）まで行われました。

現地審査においては、真屋会長によるプレゼンテーション、フィールド審査、交流会等を通じ、当ジオパークが主要テーマとする「変動する大地との共生」に主眼を置いた教育活動や、住民との協働による保全活動、火山マイスターやガイド団体の活動、民間によるジオツーリズムの推進活動などの事例を紹介しました。

現地審査終了後の講評においては、審査員のお2人から「洞爺湖有珠山火山マイスター制度等により地域の方々のジオパーク活動が広がっていること」「当ジオパークが防災教育における学びの場となっていること」「地場産品プロモーションの取組を積極的に進めていること」「北海道や各構成自治体等から質の高い支援を受けて活動を続けていること」などについて、高評価をいただきました。



三松正夫記念館にて

■審査員

○ニコラス・ゾウロス教授（ギリシャ）

Prof. Nickolas C. Zouros, Greece



GGN 事務局メンバー

Bureau member, Global Geoparks Network

ギリシャ・エーゲ大学教授

Professor, University of the Aegean, Greece

ギリシャ・レスボス石化林自然史博物館館長

Director, Natural History Museum of the Lesvos Petrified Forest

○ジョゼ・ブリルハ教授（ポルトガル）

Prof. Jose Brilha, Portugal



GGN 諮問機関メンバー

Member of the Advisory Group of the GGN (UNESCO)

欧州地質遺産保護連盟(ProGEO)理事長

President of ProGEO (European Association for the Conservation of the Geological Heritage)

ポルトガル・ミンホ大学准教授

Associate Professor, Earth Sciences Department, University of Minho

国際地質科学連合(IUGS)地質遺産部会メンバー

Member of the Geoheritage Working Group of IUGS

1日目(7/24(水)) テーマ:【11万年前の巨大噴火から有珠山誕生】

■スケジュール

| | |
|-------|---------------------------------|
| 12:50 | 新千歳空港到着 |
| 13:15 | 新千歳空港出発 |
| 14:20 | 道の駅・フォーレスト276大滝 視察 |
| 16:00 | 湖畔の宿かわなみ到着(取組紹介) |
| 16:10 | エクスカーションA【洞爺湖湖上めぐり】 |
| 17:00 | 下船後、徒歩にて湖畔遊歩道を散策 |
| 17:10 | ホテル到着(洞爺湖温泉・TOYA 乃の風リゾート) |
| 18:00 | 構成4市町長との懇談会(歓迎夕食会・TOYA 乃の風リゾート) |
| 20:00 | (終了) |

■写真



洞爺湖湖上めぐり



住民の歓迎を受ける審査員



歓迎夕食会

■質問・回答

○道の駅フォーレスト276大滝にて

問 シオパークの境界は何を基準に決めているのか。行政の境界か?(ゾウロス教授)

答 行政の境界が基本となるが、地質形質や地形は行政区分とは関係ないため、推進自治体以外の町村や、海中にまで境界が広がっている箇所がある。(廣瀬顧問)

○壮瞥町蟠溪地区の民間設置のシオパーク看板について

問 設置主体は? 看板の情報の統一はどのようにしているか?(ブリルハ教授)

答 地域住民が自主的に設置し、シオパークを盛り上げてくれている。ロゴ使用などについては協議会で申請の仕組みをもち、内容も確認している。(事務局)

○歓迎夕食会にて

問 シオパークになったことで、各自治体にどのような変化が生まれたのか?(ゾウロス/ブリルハ教授)

答 町民が地域の観光資源に自信を持つようになった。東日本大震災の影響等で大きく落ち込んだ観光客も持ち直しており、特に外国人が増えたのはシオパークの効果と思う。(真屋町長)

答 住民が地元の自然や文化・歴史を再発見し、生活の根幹として意識するようになった。(菊谷市長)

答 子供達や住民が地元の自然、文化の学習を通し、地域の魅力を認識できた。(工藤町長)

答 GGN 認定をきっかけに地元の人たちがアイデアを出し合って自発的な活動を始めるようになった。シオパーク推進を街づくりの基本に位置付けた。シオパークで育った人材も地域の宝。(佐藤町長)

■その他(コメント等)

○歓迎夕食会にて

- ・4自治体の行政のトップが力強い支援を行っていることが分かった。世界中どのようなシオパークでも行政の支援なしでは成立しないので、素晴らしいことと思う。(ブリルハ教授)

2日目 (7/25(木)) テーマ：【有珠山の山体崩壊と先人の暮らし】

■スケジュール

- 9:00 (ホテル出発)
- 9:30 **歓迎セレモニー (伊達市防災センター)**
※歓迎挨拶：真屋会長 ※来賓挨拶：山谷副知事
- 9:45 **協議会プレゼンテーション (伊達市防災センター)**
※真屋会長による基本理念説明、事務局による進捗状況報告及び質疑応答
- 11:45 昼食 (伊達ホテルロイヤル)
- 13:15 **フィールド審査①【北黄金貝塚】** ※青野友哉・伊達市学芸員
- 14:45 **フィールド審査②【アルトリ岬】** ※福田茂夫・アルトリ海岸ネイチャーハウス館長
- 15:25 **フィールド審査③【善光寺⇒善光寺自然公園】** ※福田茂夫・アルトリ海岸ネイチャーハウス館長
- 16:40 **エクスカーションB【壮瞥くだもの村・浜田園】** ※加賀谷仁左衛門・火山マイスター
- 17:30 **交流会&地域活動プレゼンテーション (壮瞥町地域交流センター-山美湖)**
※取組紹介：ゾオの恵み弁当、豊浦ゾオ村、教育利用、火山マイスター、地域環境保全
- 19:45 (終了)

■写真



歓迎セレモニー



山谷副知事による挨拶



協議会プレゼンテーション



史跡北黄金貝塚公園



アルトリ海岸
ネイチャーハウス



有珠善光寺



そうべつくだもの村



交流会会場



展示の様子



取組紹介

■歓迎セレモニー挨拶（要約）

○歓迎挨拶 真屋敏春 協議会会長

- ・ニコラス・ゾウロス教授、ジョゼ・ブリルハ教授、当ジオパークによろこそ。
- ・この2日間の審査では、当協議会のメンバーやアドバイザーの皆様とともに、我々が、「地域の持続的な発展を目指す世界ジオパークの理念」に共感し、この4年間に進めてきた数々の取組をご覧いただきたい。
- ・特に、地域住民の献身的な保全活動、次期噴火への備えとして、この地域が取り組んでいる防災・減災の取組、また、ガイド活動や防災教育の担い手として養成している「火山マイスター」の活動、さらには、民間企業による「ジオツーリズム」の推進活動に注目いただきたい。
- ・また、お2人からは、世界で活躍する科学者の視点と、世界各地のジオパーク活動を支えてきた経験から、当ジオパークへのご助言やご提言をいただけるものと期待する。

○来賓挨拶 山谷吉宏 北海道副知事

- ・ニコラス・ゾウロス教授、ジョゼ・ブリルハ教授の来訪を歓迎する。
- ・東日本大震災以降、住民自身による防災・減災の取組の重要性が改めて認識されている中、この地域でのこれまでの取組が一つのモデルになると考えている。
- ・2009年の認定以降、火山マイスター養成や生徒・学生向けの教育ツアーが実施されるなど、プログラムの充実も図られてきた。
- ・北海道としても洞爺湖有珠山ジオパークの取組に対し様々な応援をしてきたところだが、何よりも地元の皆さまが世界ジオパークの認定を受けた誇りや責任感のもと、幅が広い活動を展開してきたことは大変有意義であった。
- ・これから2日間の審査により、当地の取組が世界ジオパークの一員としてさらにふさわしいものになるよう高い見地からのアドバイスをいただくなど、実りある成果を期待する。

■協議会プレゼンテーション（要約）

○基本理念 真屋敏春 協議会会長

- ・変動帯に位置する日本には地震や噴火など地質災害をテーマに据えたジオパークが多くあるが、過去350年間に9回の噴火を経験しているこのジオパークはその代表格。私たちのジオパーク活動の根底には、火山のもたらす恵みを受容・活用するとともに、災害の経験を蓄積・伝承し、次なる災害に備えることで「火山との共生」を実現するという、この地域ならではの思想がある。
- ・洞爺湖有珠山ジオパークの最大の特徴は、火山マイスター制度など、地域の人々の育成と、災害記憶の伝承による減災文化の醸成を強く意識し、私達のジオパークが幾世代にわたって育んできた「火山との共生意識」をジオツーリズムによって全世界に向けて発信することで、人類の共有財産にしたいとの強い意思を持つことにある。
- ・地球上で暮らす限り、規模や頻度の違いはあれど、どの地域であっても地質災害のリスクを避けることはできない。しかも地域の特性によって、災害は様々な形に姿を変える。そのため、それぞれの地域に住む人々が科学的な知識と思考に基づいて大地の特性を深く理解し、何が起こりうるか、それに備えどのような行動をとり長期的な社会形成を成していくか考えていかなければならない。
- ・特に、ジオパーク活動がアジア・アメリカ・アフリカなど高い地質災害リスクを有する地域にも急速に拡大しつつある今、防災・減災教育、地域の持続的発展と防災・減災を担う人材育成がそれらの地域においても意識されることは極めて重要。洞爺湖有珠山ジオパークは、GGNの中でその取組みを先導的に推進する責務があると、私達は強く認識する。

○進捗状況 中谷麻美 協議会事務局員

①2009年～2013年の洞爺湖有珠山ジオパークの取組について

- ・保全活動として、地域の開発行為（道道2号線の断層、温泉の泉源試掘調査における対応）、住民の保全活動（旧とうやこ幼稚園の整備、新山沼展望公園、四十三山展望台、西山山麓火口散策路における木道整備、金比羅火口散策路災害遺構散策路の維持管理、ジオサイト・パトロール）等を実施。
- ・教育普及活動として、火山マイスター（23名認定）を軸に講師派遣を実施。その他、『ジオパーク野外学習テキスト』の制作等がある。効果としては、地元学校のジオサイトの利用者数は、2008年度の約1,500人から2011年度には約4,000人になる等、全ての市町において増加。
- ・基盤整備として、民間による施設整備（有珠山ロープウェイ、阿利海岸リチャード等）、ホテルのジオパーク紹介（乃の風・万世閣・観光ホテル・山水・かわなみ等）がある。地元食材活用の取組みも進んでおり、成果としては有珠山ロープウェイのガイドツアー参加者がGGN認定後に飛躍的に増加した報告を受けている。

②次の2009年認定時の指摘事項に対する対応状況について、取組状況の説明を行った。

- ・『英訳が不十分であり、素材の翻訳化が必要』
- ・『解説板等で解説板の文章が詳細すぎ、一般の人にわかりづらい』
- ・『コンセプトをコミュニティからジオパークに変更しGGNの理念に沿ったものに変える必要がある』
- ・『自然崩壊しやすいジオサイトの保護が必要』
- ・『看板や各種施設等において、ジオパークの魅力発信が不十分』
- ・『砂防ダムシステムなど未活用素材の活用や、火山と地域農業の関係等のアピールが不足している』
- ・『ツアーガイドの組織化、継続的な研修が必要』

■質問・回答

○協議会プレゼンテーションの質疑応答にて

問 ジオサイトとジオポイントの違いは？（ゾウロス教授）

答 ジオポイントはジオサイトの観察に適した場所。ジオサイトに含まれる一部である。（事務局）

問 保全のためのジオサイト追加との説明があった。すばらしい取組みだがその詳細は？（プリルハ教授）

答 圏域内に埋もれ木が見つかり、保護のためのサイト指定を行った事例がある。（事務局）

※翌日、現場写真、採取サンプル等の詳細情報を示し確認いただいた。

問 火山マイスターはガイドなのか？ 専門家なのか？（プリルハ教授）

答 専門家ではない。住民の代表として「地域の防災リーダー」と「地域の魅力の紹介者」の2つの役割があり、後者でジオパークガイドとしての役割も担ってもらっている。（事務局）

問 グッズや展示など民間の取組が進んでいるが協議会はどのような支援をしているか。（プリルハ教授）

答 食のプロジェクトなどによる共同プロジェクトや取組の紹介等を行っている。（事務局）

■その他（コメント等）

○北黄金貝塚公園など歴史・文化系サイトについて

- ・教育拠点としてすばらしいサイト・施設である。善光寺など他の歴史文化系サイトとリンクさせ、ジオと結びつけたストーリーを強調できれば、更なる魅力向上と集客につながるのでは。（ゾウロス教授）

■地域活動プレゼンテーション内容

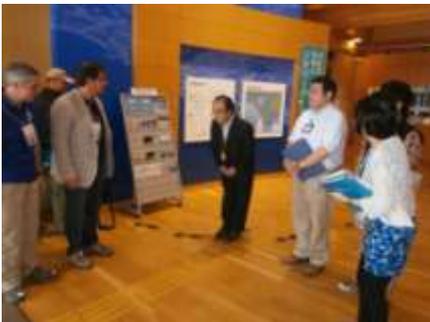
| 内容 | 団体 | 発表者 |
|----------------------|---------------|----------------|
| 取組紹介① ジオの恵み 20品目弁当 | ワカサリリゾート(株) | 専務取締役 若狭幸司氏 |
| 取組紹介② 豊浦町のジオサイト | 豊浦町郷土研究会 | 会長 小西重勝氏 福田茂夫氏 |
| 取組紹介③ 壮瞥中学校のジオパーク教育 | 壮瞥中学校 | 校長 新沼潔氏 |
| 取組紹介④ 火山マイスターの活動 | 火山マイスターネットワーク | 代表 池田武史氏 |
| 取組紹介⑤ 地域の特性を生かした環境保全 | 洞爺湖温泉利用協同組合 | 専務理事 四宮博氏 |

3日目 (7/26(金)) テーマ：【変動を続ける大地と、地域との共生】

■スケジュール

- 8：20 (ホテル出発)
- 8：30 **フィールド審査④【火山科学館】** ※佐々木伸VM(火山科学館解説員)
- 9：20 **フィールド審査⑤【旧とうやこ幼稚園】** ※馬場俊治VM
- 10：00 **フィールド審査⑥【金比羅火口災害遺構(有くん火口⇒遺構散策)】** ※阿部秀彦VM
- 11：55 昼食 (バイエルン) ※山中漠・前会長との懇談
- 12：45 **フィールド審査⑦(有珠山RW山頂駅⇒火口原展望台⇒火山村情報館)** ※飯田理VM(ワカリガイド)
- 14：30 **フィールド審査⑧(三松正夫記念館)** ※三松三朗館長
- 15：20 **有珠火山に関する学術的解説(そうべつ情報館i)** ※岡田弘名誉教授
- 15：50 【審査員2名のみによる講評前打合せ】(そうべつ情報館i)
- 16：30 **審査員講評(壮瞥町地域交流センター山美湖)**
- 17：30 (終了)

■写真



洞爺湖ビジターセンター
／火山科学館



とうやこ幼稚園



フットパス金比羅山コース



山中前会長との懇談昼食会



有珠山ロープウェー山頂駅



三松正夫記念館



そうべつ情報館 i



審査員講評



記念写真(講評終了後)

■ 質問・回答

○審査員講評にて

問 協議会体制は？（ソウロス教授）

答 構成員は各市町長、教育長、観光協会会長等。その他、国や道の関係機関や旅行業団体にもアドバイザーとして参画いただいている。洞爺湖町に所在する事務局にて、洞爺湖町、壮瞥町、NPO の職員が常勤スタッフとして業務に当たっている。

問 今回の現地審査で紹介されなかった他の魅力があるか？（ソウロス教授）

答 豊浦町には国指定名勝であるカムイチャシなどすばらしいサイトも多く、教育分野での活用も進めている。（田中豊浦町教育長）

答 体験パンフレットを5か国語で作成。カヌー、雪上散策など圏域の魅力を面的に紹介。（事務局）

問 GGN メンバーとして他国のGGN 地域をどのように紹介しているか？（ソウロス教授）

答 GGN ロゴを解説版等に表示。また GGN を紹介するパネル展や世界の火山のジオパークを紹介する展示会を圏域内で開催。HP での周知等も行っている。（事務局）

■ 審査員講評

【ジョゼ・プリルハ教授】

- 各自治体や北海道から非常に良い支援を受けており、肯定的に捉えている。自治体の積極的関与は、他のジオパークも倣うべきであり、洞爺湖有珠山ジオパークは既に成功の域に達している。
- 学術面での支援は、全てのジオパークにとって重要な事柄であるが、洞爺湖有珠山ジオパークでは、非常に大きな支援を受けており、肯定的に捉えている。
- 火山マイスター制度は、非常に良い取組みであると感じた。
- 前回審査時の指摘事項に対する対応状況、進捗状況を確認できたことは非常に良かった。
- 看板での改善状況も良い。GGN ロゴ表示が増え、世界のジオパークのよいPRとなっている。
- パンフレット等の視覚効果（見た目）も優れている。
- インフラ整備についてもレベルが高い。ミュージアム、情報センターでのジオパーク PR の内容が、シンプルで一般の方々に分かりやすいものとなっている。視覚的にも良い。特筆すべき事項と感じた。

【ニコラス・ソウロス教授】

- 教育（特に自然災害）を最優先事項としていることについて、ユネスコやGGNでも、もっと広める必要があると考えているが、洞爺湖有珠山ジオパークの取組は非常に良い印象を受けた。
- 地産物のプロモーションについても、非常に良い取組（地産地消）を行っていると感じた。
- GGNに加盟している全ての地域は、お互いに知識などを共有し、助け合い、質を向上させることが重要であるが、洞爺湖有珠山ジオパークには非常に大きな可能性があると感じたので、GGNの他のメンバーと、良い点や上手く行っていない点についても共有して欲しい。
- 地元産品にジオパークのロゴのラベルを貼るなどの取組により、地元産品に付加価値を付けることが出来るのではないかと感じた。
- 専門用語の使用について、若干、エリア内で統一されていない部分があったので、より明確にすることが出来るのではないかと感じた。
- ジオパークを作り上げるということは、様々な地域資源にしっかりと科学的説明を加えジオ（地球・地質）と地域社会のつながりを語ることである。

【総括（ソウロス教授）】

- 我々はこの2日半、洞爺・有珠地域に滞在して多くの教訓を得ることができた。
- 洞爺湖有珠山ジオパークやGGNは、まだ世界的に知られている存在であるとは言えないので、皆様の努力下、洞爺湖有珠山ジオパークを引き続き世界に推進しGGN の名前を広めて欲しい。

4日目 (7/27(土))

■スケジュール

- 7:45 (ホテル出発)
8:00 **追加エクスカージョンA 【西山山麓散策路、国道の断層】**
10:00 (ホテル再出発) ※手旗にてお見送り
追加エクスカージョンB 【1977年火山遺構公園】
12:00 新千歳空港着
13:50 **新千歳空港出発**

■写真



追加エクスカージョン 西山山麓



地域住民・ジオパーク関係者による見送り

■記念品について

○次のものを記念品として審査員の2名に贈呈。

- ・革製ジオパークキーホルダー、ジオパーク携帯ストラップ
(豊浦町・高岡民芸)
- ・写真集『洞爺湖物語』及びポストカード(洞爺湖町・田中正文氏)
- ・藍染手ぬぐい(伊達・藍工房)

※7/26(金)の講評前打合せにて、壮瞥町産さくらんぼを提供。



■空蘭民報（7月27日 朝刊）

認定継続へ高評価

「世界の先進的事例になる」



ジオパーク再審査終了

壮 警

世界ジオパークネットワーク（GGN）が洞爺湖有珠山地域で行っていた再審査は26日、現地審査の全日程を終了し、審査員が講評した。ニコラス・ソウロス教授（ギリシャ・エーゲ大学）は、「世界のジオパークにとって先進的事例になる」と高く評価した。（菅原啓）

この日は火山科学館、旧とつやこ幼稚園、金比羅火口災害遺構、有珠山ロープウェイなどを視察。壮警町地域交流センター山美湖で行われた講評には、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（会長・真屋敏春洞爺湖町長）を構成する4市町の関係者ら約30人が出席した。

ソウロス教授は「防災教育に優先的に取り組み、地場産品を活用している点も有効で良いモデル。指摘事項への対応も見られた」と前向きに評価。もう一人のジョゼ・プリルハ教授（ポルトガル・ミンホ大学）も「自治体との関係性は成功のレベルに達している」と称賛した。

講評を聞き、真屋会長は「旧とつやこ幼稚園を視察するGGNの審査員の

旧とつやこ幼稚園を視察するGGNの審査員の

長は「4年間の実績が審査員に伝わった。行政だけでなく地域一体で取り組んだ成果」と肯定的な評価がなかったことに安堵していた。

認定継続を決める4年に1度の再審査は、25日から2日間にわたって現地審査を実施。八つのジオサイト、施設を訪れ、保全や活用具合、ガイドの体制、民間事業者の取り組みなどを確認し、地域への浸透度、4年間の実績を検証した。

GGNは審査員の報告を基に協議し、9月半ばまでに認定継続の可否を判断する見通し。

洞爺湖有珠山ジオパーク世界認定再審査 出席者/対応者一覧

| | |
|-----------------|--|
| 【北海道】 | <p>山谷吉宏 北海道副知事【来賓】</p> <p>田邊隆久 北海道胆振総合振興局長（協議会アドバイザー）</p> <p>篠原正行 北海道教育庁胆振教育局（協議会アドバイザー）</p> <p>山本文彦 北海道胆振総合振興局地域政策部長</p> <p>前川晃輝 北海道胆振総合振興局地域政策課長（協議会幹事会アドバイザー）</p> <p>奥田祥文 北海道胆振総合振興局食と観光推進室長（協議会幹事会アドバイザー）</p> <p>五十嵐晋 北海道教育庁胆振教育局教育支援課長（協議会幹事会アドバイザー）</p> <p>遠島 悟 北海道胆振総合振興局地域政策課主査</p> |
| 【国・官庁】 | <p>倉西秀雄 北海道開発局室蘭開発建設部有珠復旧事務所（協議会幹事会アドバイザー）</p> <p>原さやか 北海道地方環境事務所・洞爺湖自然保護官（協議会幹事会アドバイザー）</p> <p>押野 稔 北海道森林管理局後志森林管理署森林技術指導官（協議会幹事会アドバイザー）</p> |
| 【伊達市】 | <p>菊谷秀吉 伊達市長（協議会監事）</p> <p>菅原健一 伊達市教育長（協議会構成員）</p> <p>石澤高幸 伊達市企画財政部企画課長（協議会幹事）</p> |
| 【豊浦町】 | <p>工藤國夫 豊浦町長（協議会副会長）</p> <p>田中了治 豊浦町教育長（協議会構成員）</p> <p>半澤 豊 豊浦町企画調整課長（協議会幹事）</p> |
| 【壮瞥町】 | <p>佐藤秀敏 壮瞥町長（協議会監事）</p> <p>田鍋敏也 壮瞥町教育長（協議会構成員／教育普及委員）</p> <p>工藤正彦 壮瞥町総務課長（協議会幹事）</p> |
| 【洞爺湖町】 | <p>眞屋敏春 洞爺湖町長（協議会会長）</p> <p>綱嶋 勉 洞爺湖町教育長（協議会構成員）</p> <p>澤登勝義 洞爺湖町観光振興課長（協議会行政委員長）</p> <p>佐藤孝之 洞爺湖町観光振興課参事／洞爺湖ビジターセンター施設長（ガイド委員会副委員長）</p> <p>角田隆志 洞爺湖町教育委員会社会教育課学芸員（教育普及委員）</p> <p>三谷智広 洞爺湖町教育委員会社会教育課学芸員</p> |
| 【学識顧問】 | <p>岡田 弘 北海道大学名誉教授／NPO 法人環境防災研究機構北海道副代表理事</p> <p>露崎史朗 北海道大学大学院地球環境科学研究院教授</p> <p>三松三朗 三松正夫記念館館長</p> <p>廣瀬 巨 北海道立総合研究機構地質研究所地質防災グループ 博士(理学)</p> |
| 【協議会構成員】 | <p>若狭洋市 社団法人洞爺湖温泉観光協会会長（協議会副会長／観光委員長）</p> <p>小川裕司 (株)洞爺ガイドセンター代表取締役（ガイド委員長）</p> <p>加賀谷仁左衛門 火山マイスター（教育普及委員会副委員長）</p> <p>小西重勝 豊浦郷土研究会会長（住民委員長）</p> <p>佐藤 恣 ジオパーク友の会ガイド部長／火山マイスター（住民委員／ガイド委員）</p> <p>馬場俊治 有珠山ガイドの会代表／火山マイスター（住民委員／ガイド委員）</p> <p>佐久間重行 オコシベの会代表（住民委員会副委員長／ガイド委員）</p> <p>酒井卓晃 うす観光ボランティアの会会長（住民委員／ガイド委員）</p> <p>阿野光弘 NPO 法人そうべつ観光協会会長（観光委員会副委員長）</p> <p>毛利貞秀 NPO 法人そうべつ観光協会事務局長（観光委員代理）／火山マイスター</p> <p>大坪鐵雄 NPO 法人だて観光協会会長（観光委員）</p> <p>今井 良 NPO 法人だて観光協会専務理事（観光委員代理）</p> <p>佐々木清志 社団法人洞爺湖温泉観光協会事務局長（観光委員代理）</p> <p>正源 昭 NPO 法人豊浦観光ネットワーク事務局長（観光委員代理）</p> <p>村上隆昭 NPO 法人洞爺まちづくり観光協会事務局長（観光委員代理）</p> <p>池田武史 洞爺有珠火山マイスターネットワーク代表（ガイド委員）</p> <p>乳井亜矢子 NPO 法人自然体験学校洞爺湖・豊浦校長（ガイド委員代理）</p> |
| 【取組発表・現地審査ガイド等】 | <p>山中 漠 前壮瞥町長／協議会前会長</p> <p>若狭幸司 ワカサリリゾート(株)専務取締役</p> <p>伊畑直樹 ワカサリリゾート(株)取締役／営業部長</p> <p>四宮 博 洞爺湖温泉利用協同組合専務理事</p> <p>新沼 潔 壮瞥中学校校長</p> <p>井上邦人 ナチュラル・フロンティア(株)代表取締役社長（道の駅フォーレスト276大滝）</p> <p>浜田美和子 くだもの農家 浜田園</p> <p>福田茂夫 豊浦町郷土史研究会、豊浦町教育委員会、火山マイスター</p> <p>阿部秀彦 火山マイスター</p> <p>安藤 忍 火山マイスター</p> <p>石畑隆史 火山マイスター</p> <p>木原敏秋 火山マイスター</p> <p>佐茂厚美 火山マイスター</p> <p>田中正文 火山マイスター</p> <p>松本ありさ 火山マイスター</p> <p>・荒井勲紀 火山マイスター</p> <p>・飯田 理 火山マイスター</p> <p>・川南恵美子 火山マイスター</p> <p>・佐々木伸 火山マイスター</p> <p>・立野広志 火山マイスター</p> <p>・夏目與市 火山マイスター</p> |
| 【事務局】 | <p>武川正人 協議会事務局長（洞爺湖町ジオパーク推進課長）</p> <p>遠藤一也 協議会事務局員（洞爺湖町ジオパーク推進課主査（北海道派遣職員））</p> <p>加賀谷にれ 協議会事務局員（壮瞥町総務課主事）</p> <p>中谷麻美 協議会事務局員（洞爺湖町ジオパーク推進課主任）</p> <p>畑 吉晃 協議会事務局員（NPO 法人環境防災総合政策研究機構北海道研究員）</p> <p>三松靖志 壮瞥町商工観光課主幹 兼ジオツーリズム推進係長</p> <p>高橋俊也 壮瞥町総務課防災係長 兼ジオパーク推進係長</p> <p>有泉さおり 通訳</p> |

